

「Face to Faces, Face to Communities, Face to the World—向き合う、つながる、そして広がる」をメインテーマに、人々の交流とさらなる国際化をめざす

JRC2014が、4月10日(木)～13日(日)の4日間の日程でパシフィコ横浜を会場に開催された。メインテーマには、「Face to Faces, Face to Communities, Face to the World—向き合う、つながる、そして広がる」が掲げられ、患者や医療者と向き合い、チーム医療や地域連携でつながり、国際的な広がりをめざしたプログラムが組まれた。

ITEMブースレポートなどJRCの話題はインナビネットで!

■人や地域とつながる放射線医療へ

JRC2014では、第73回日本医学放射線学会(JRS)総会の会長を岡山大学大学院の金澤 右氏、第70回日本放射線技術学会(JSRT)総会学術大会の大会長を山形大学医学部附属病院の江口陽一氏、第107回日本医学物理学会(JSMP)学術大会の大会長を首都大学東京大学院の福士政広氏が務めた。メインテーマについて、金澤 JRS 会長は、人や地域、社会との交流の重要性を認識し、医療本来の意義を再認識する場にしたいというメッセージであると説明している。また、江口 JSRT 大会長も、患者やスタッフと向き合い、チーム医療を進めていくという思いが込められていると述べている。

メインテーマにある「Face to the World」そして「広がる」という言葉は、各学会の国際化の促進という意味も持たせている。ここ数年、JRCでは「国際化」が1つのキーワードとなっており、ポスター発表や口演などの英語化を進めている。今回、JRSでは国際化が進んだ成果として、口演の30%が英語で行われた。また、初の試みとして、研修医セミナーなどでアンサーパッドを用いて、参加者と双方向でやりとりできる仕組みを設けた。セミナーの進行中に参加者からの回答を集計しスクリーンに表示。意見を共有できるよう工夫した。これは、メインテーマにある「向き合う」「つながる」にも通じるものと言える。

■メインテーマに関連し、日本サッカー協会(JFA)などとのコラボレーションを実施

さらに、今回のメインテーマに関連し、JFAとJRCの合同企画として「チーム医療・リスペクトコーナー」が、2014国際医用画像総合展(ITEM in JRC 2014)会場に設けられた。これは、JFAが進めているリスペクト・プロジェクト「大切に思うこと」の理念が、チーム医療にも通じることから実現したコラボレーション企画。各学会・団体の会長・大会長のパネル展示などが話題となった。13日には、合同シンポジウム3として、JRC-JFA ジョイントシンポジウム「つながる人材育成とスペシャリスト養成」が行われた。このほか、JRS初の企画として、12日の朝には「チャリティイベント Run&Walk」が実施された。イベントの参加費は東日本大震災の被災地や開発途上国の子どもの支援活動に寄付される。バルセロナオリンピック銀メダリスト、アトランタオリンピック銅メダリストの有森裕子氏を招き117人が参加。パシフィコ横浜のあるみなとみらい地区をランニング(5km)とウォーキング(3km)で巡った。

JRC 合同特別講演としては、京都大学再生医科学研究所/京都大学iPS細胞研究所の戸口田淳也氏が「iPS細胞研究の現状と展望」をテーマに講演した。また、JRC 合同シンポジウムは、上記のほか「より安全で確実なIVRを目指して」



11日に行われた合同開会式



JFAとコラボレーションした
チーム医療・リスペクトコーナー

(11日)、「医療被ばくの低減と正当化、最適化のバランス」(12日)が行われた。

◎

国際化をめざす英語化の推進により、参加者数の減少も心配されたJRC2014であったが、13日の合同閉会式において、JRC代表理事を務める神戸大学大学院の杉村和朗氏が、前年比-114人の1万1756人が参加したと発表した。また、ITEM2014の入場者数は前年より増加し、2万2140人であった。

JRC2015は、「Be Cool and Practice」をメインテーマに、4月16日(木)～19日(日)の日程で、パシフィコ横浜で行われる。第74回日本医学放射線学会総会の会長を東京大学大学院の友 邦氏、第71回日本放射線技術学会総会学術大会の大会長を信州大学医学部附属病院の平野浩志氏、第109回日本医学物理学会学術大会の大会長を新潟大学の和田真一氏が務める。



チャリティイベントRun&Walkで
ゴールする有森氏(右)と参加者



戸口田淳也氏による
JRC 合同特別講演



合同閉会式前に演奏したJRC会員も
参加するJRC2014 Festival Orchestra

●2014年6月号はJRC2014
特集です。ご期待ください。